

人権歴史ゼミ 12月12日第5回レジメ

第8紙 上段・下段

しまばらあげや 島原揚屋

豊臣秀吉政権による京都での公娼制度の成立

二条柳町－秀吉政権の京都改造政策の一つとして、それまで各所にあった遊女町を現在の中京区柳馬場二条上がる付近に集めた。天正一七年（一五八九）には成立していた文献がある。

六条三筋町（六条柳町）－二条城を建造した徳川政権にとっては、二条大路は大手筋にあたるため、二条柳町が邪魔になり、慶長七年（一六〇二）に六条三筋町に移転させる。範囲は東は室町、西は西洞院、北は五条、南は魚の棚を限る。

上の町・中の町・下の町の三筋の横の通りがあった。

西新屋敷（島原）－寛永一八年（一六四一）に朱雀野に新しい地を開発して移転させられる。江戸時代を通じて唯一の公許の遊郭であった。

四方を堀で巡らし、入口は東北部に一ヵ所しかなく、大門があった。廓内は六町（上之町・中之町・下之町・中堂寺町・太夫町・揚屋町）に分かれ、最盛期の元禄時代（一七〇〇年頃）には家数一九六軒という資料もあるが、安永三年（一七七四）の記録では、家数七〇軒（傾城屋三一軒・揚屋二一軒・茶屋一八軒）とある。

祇園・先斗町・北七軒・宮川町などは、島原支配下の出稼ぎ地として黙認されたもので、公許の遊郭ではなかった。あくまでもお茶屋である。

第9紙 上段

水やくし 水薬師

やくしとう 薬師堂

江戸時代の西塩小路村（現下京区西小路石井町 御前通七条下る）水薬師寺

平安時代には大きな池があって、日に5回も干満があった。若狭の海水に通じるといふ伝説がある。塩小路の「塩」の由来ともなったという。また岩井（石井）の水が湧き、平清盛が熱病を煩ったときに利用した。池に入る病人の姿。

正保年間（一六四四～四八）に、京都所司代板倉勝重によって再興され、庶民の信仰を集めた。

平清盛西八条第 東西3条・南北2条の大きさ。妓王・妓女の話。清盛没後二日後に焼失したといふが、再建されたともいう。

しまはらけいせひまち 島原傾城町

大門の内を描く。四方は堀で巡らされている。

下段

みぶ 壬生

大宮通りの西側。壬生地蔵尊。3月の大念仏会が有名。ここの得意曲は「猿の曲芸」
鱈口を打つ。「壬生狂言」



岡山美術館蔵「洛中洛外図屏風」



林孝氏旧蔵「都月次風俗図巻」

しんぜんゑん 神泉苑

平安時代の神泉苑は二条大路以南、三条大路以北、大宮大路以西、壬生大路以東の8町分を占めた。江戸時代は御池通りと二条城に挟まれた1町弱の地。池の一部は残されていた。

こいでゑつちうやしき 小出越中屋敷

小出尹貞（たださだ） 1660～1665 京都町奉行 禁裏の事を多く担当

第10紙 上段

二条御しろ 二条御城

二条城の掃除役 寛永年間（1624～43）から、天部出身の「かわた頭」下村家（109石7斗を城から支給されていた）。宝永5年（1708）三代目下村文六の病死により没落。

御ふろや 御風呂屋（?）

みづの甚吾右衛門やしき 水野甚吾右衛門屋敷

水野忠貞 正保4年（1647）に小堀政一（遠州）から伏見奉行を受け継いで五畿内・丹波・播磨・近江などの奉行を兼任した。1669年退任。

すゞき長さへもん御やしき 鈴木長左衛門御屋敷

鈴木重辰 旗本。寛文4年（1664）京都代官に就任。この屋敷は幕府より銀20貫文を賜って建てた。

あめのみやこんさへもん 雨宮権左衛門

雨宮正種の屋敷。寛文8年（1668）に初代西町奉行となる。1671年在任中に没。

下段

御もん 御門

二条城の大手門。二条大路が大手筋となる。淀川から伏見港を経て、高瀬川によって一の舟入に物資を運び、大手通りから二条城への道。

まきのさどのかみ 牧野佐渡守

牧野親成（ちかしげ）。下野関宿藩主であるが、承応 3 年（1654）より京都所司代に就任。寛文 8 年（1668）辞任。牧野家は何回か京都所司代に就任している。

さどのかみ下やしき 佐渡守下屋敷

付はやかね 付早鐘

第 11 紙 上段 下段

きたのきやうどう 北野経堂

北野天満宮一の鳥居近くにあった。「教王堂」とも呼ぶ。足利義満が明德の乱で戦死した山名氏清を弔うために創建。全国から僧侶を集めて万部経をよませるといふ大法会を行っている。また大般若経を書写させたり、後には版行させてもいる。この経会には多くの庶民が集まった。足利義政が経王堂の聴聞抜き多に着た寛正 2 年（1461）10 月 10 日には「被替御輿召、経王堂在御成、五・六卷御聴聞在以後、（中略）一条へ還御之時、散所者アヤツリ物御見物在之云々。」とある。西の京の散所

義満が創建当初に揮毫した「経王堂」の額が大報恩寺の観音堂に残る。

ひかしむきのくわんのんとう 東向の観音堂

北野天満宮二の鳥居の西にある。北野社の神宮寺であったともいわれる。向川に西向観音堂があった雅、早くに廃れた。

きたのてんじん 北野天神

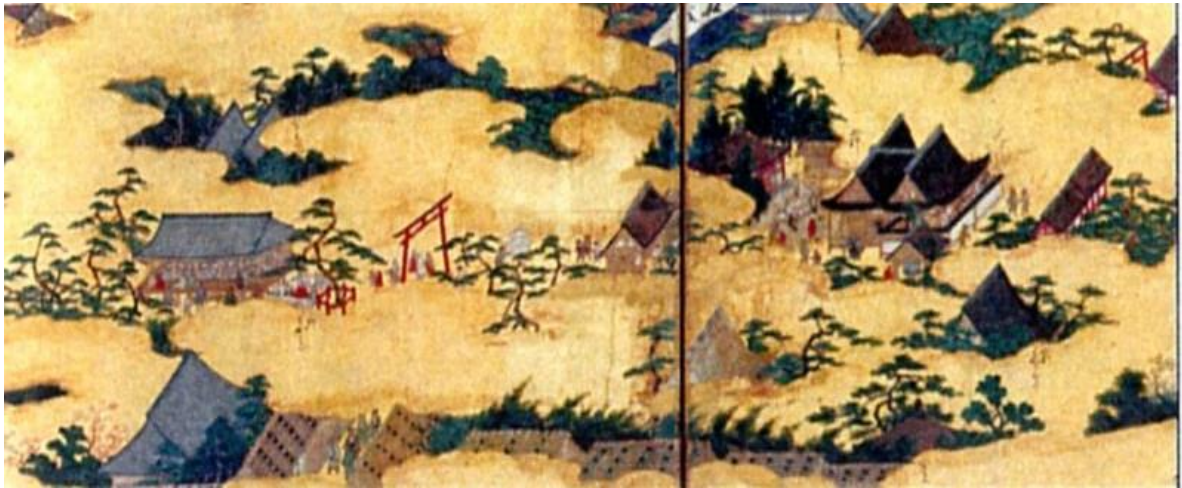
北野天満宮 慶長 12 年（1607）に豊臣秀頼が造営。

ゆききやうのしやかどう 遺教教会の釈迦堂

千本釈迦堂（大報恩寺） 本堂の釈迦堂のみ応仁の乱でも焼けずに残る。鎌倉時代初期の遺構。寺内観音堂は明治の建造物であるが、経王堂の系譜を受ける。



町田本「洛中洛外図屏風」1520 年代



上杉本「洛中洛外図屏風」1560年代



北野天満宮蔵「北野社頭図屏風」江戸時代中期頃



北野付近拡大図